



第184号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会長
市川貞夫
編集人 会報編集委員
市川武彦
印刷所 須坂新聞社

谷川先生授業公開される

成田 茂

筑波大学教授谷川彰英先生を中心講師としてお迎えし、「自ら課題をもって、学ぶ喜びを味わえる授業」を中心テーマにしての三年次の研究を進めてきました。内容としては、①基礎的・基本的な内容を重視し、教材研究を深めた授業②体験的活動を重視し、活動の量や質を高める授業③子どもが自らの追究課題を明確に学習する授業の実践・具現化です。

五月十五日には、谷川先生より「新教育課程と総学習」という演題でご講演いただきました。その中で、総合的な学習の時間の内容や配慮すべきこと等についてご示唆いただきました。子どもが成長していく中で重要な時期は小学校二年生と五年生頃で、手塚治虫が十五万枚の原画を描けたのも少年時代に野山を駆けめぐった体験があったからで

きたといわれることや、新教育課程の改正で各教科の内容が三分の一減らされるため、学力の低下が予想されるので、余計従来の教科学習を徹底してやる必要があることなどのご指導をいただきました。七月九日には、豊丘小学校大和学級において谷川先生ご自身がトピック「民主主義」という内容で、私たち会員に授業公開をなされる画期的な研究となることができました。今まで、ご指導いただいた「参加型」の授業を「四党首会談」という役割演技によるロールプレイングによって、児童が自分の意見を発表し、全児童が参加する授業のご示範をされました。この授業の詳細につきましては社会科研究委員会でもまとめた「谷川彰英先生公開授業記録」をご覧ください。思いがたく思います。(高甫小)

本校の中核活動

エコキッズになるう

—環境教育の一環として—

栗ガ丘小学校

四年生の社会科では、「住みよいくらし」の学習をします。私のクラスでは、ゴミ処理や下水処理の仕方、各施設の見学を通して理解しながら、自分たちのくらしを支えている施設とそこで働く人々に感謝の気持ちを持てるよう、学習を進めました。さらに、リサイクルの仕方を学び、地球を守るために自分たちができることは何かを考え、実行してみる活動へとつなげていきました。

四年生のスタートは、クラス替えをしたばかりで、子どもたちにおし、そして、担任と子どもたちの関係も、すぐにはしっかりとつかない感じでした。このクラスが一つにまとまって何か取り組めることはないかと、かねてから担任は考えていました。そこでねらいをつけたのが、「エコキッズ」です。一学期に総合的な学習を意識して、子どもたちに「周りの人のためになること」でこのクラスでできることは何か」というアンケートを取ったところ、ゴミ拾いをして町をきれいにしたいと答えた子が多かったので、社会科と環境教育を結びつけた学習が仕組みそうだと考えたのです。

二年生になって、十月の社会見学を目指して「住みよいくらし」の学習に入りました。四学年の社会科では、「住みよいくらし」の学習をします。私のクラスでは、ゴミ処理や下水処理の仕方、各施設の見学を通して理解しながら、自分たちのくらしを支えている施設とそこで働く人々に感謝の気持ちを持てるよう、学習を進めました。さらに、リサイクルの仕方を学び、地球を守るために自分たちができることは何かを考え、実行してみる活動へとつなげていきました。



見学のまとめをし、「これからはみんなにできることは何か」と子どもたちが考えたことは、町のゴミ拾いと、水道使用は一日六回にすること等。一週間実行し、ゴミのポイ捨ての多さと水のありがたさを体験しました。こうして三十一名のエコキッズが誕生しました。(栗ガ丘小 藤澤順子)

教育会だより

- 10・15 第5回常任委員会
- 10・28 第4回研究小委員会
- 11・16 第7回同好会
- 11・19 研究日 谷川彰英先生
理科研究委員会ご指導(於森上小学校)
- 11・24 教育会中間会計監査
- 12・2 第5回研究小委員会
- 12・4 研究発表会(於上高井教育会館)
- 12・6 第6回常任委員会
- 12・9 第6回代議員会
- 12・15 上高井教育会報184号発行

女性・青年教師研究大会より 男女共同参画社会をめざして

畠山 智加江

今年度より、名称が「女教師委員会」から「女性教師委員会」と改まりました。そして、「男女混合名簿」の実施が各学級で行われるようにもなりました。これらの変更は、私たちが無意識にしている男女差別に気づき、なくしていくスタート段階の取り組みと
思っています。

そこで、今年度のテーマを「人間性豊かな児童・生徒を育てるために、私たちはどのようにしたらよいか」にし、サブテーマを「男女共生を学

教育課程研究協議会を終えて

丸山 江里子

本年度豊丘小学校では「表現を工夫して歌いたいという願いをもち意欲的に取り組む音楽学習はどうあったらよいか」を研究テーマに据え、喜びのある音楽学習を追求してきました。音楽の楽しさを技能面からとらえがちな本校児童に、自分の持った曲のイメージを歌唱表現の中で実現できたという喜びを感じる体験を積み重ねていきたいと考えたのです。新学習指導要領でもこれからの音楽ではより児童が楽しみながら浸りこめる学習

た。真正の人であった。いま女性は月である。他によって生き、他の光によって輝く、病人のような蒼白い顔の月である。――平塚らいてうーの言葉に象徴されるように男尊女卑(男女差別)の考えがあったこと。その考え方により男は仕事、女は家庭に分けられ
てしまい、それが、現代の家庭崩壊や女性の非婚・小子化・男性の過労死問題等へもつながっていること。これらの問題を解決するには、人々の固
定の役割分担意識から人格尊重の意識へ転換する必要がある
り、そのために、ジェンダーフリーの意識を育てることが重要で、法的にも「男女共同参画社会基本法」を成立、施

自然と横断的な学習に発展していきましたが、子供たちは教科の枠にとらわれず多方面から曲に触れ曲への想いを深めていけたように思います。本年度この活動を進めていく中で、いいなあと思ったり子供の姿に数多く出会いました。「かくれんぼ」という曲では「ここは強く歌いましょう。」と指示するかわりに、クラスみんなでかくれんぼをしてみました。たくさん遊んだ後歌ってみると、子供たちが自分達から、「まあだだよは大きい声で歌うと見つかっちゃうよ。」とか「もういいかいは大きい声で歌わないと遠くで隠れる人にきこえないよ。」など
強弱を付けたがるのです。自

行してバックアップするようになったことなどを話していただきました。講演を聞いて、「学校生活の中で男と女を分け、ジェンダーを助長していた。」「自分の受ける性差には敏感でも、『男のくせに』という意識で不満を持ったり『女だから』と逃げ腰になったりしている事実を素直に認める必要がある。」「等の感想が寄せられ、改善点がみえてきました。最後に、ジェンダーを持つ教師がジェンダーフリーな生き方を広げていかなければならない現状(学校教育の果たす役割)は、困難かつ重要だと感じました。(旭ヶ丘小)

図書館活用フォーラムに参加して

山岸由美子

十月二十六日(二十七日の二日間、埼玉県浦和市で行われた、東部地区学校図書館活用フォーラムに参加させて頂きました。県外で研修できる機会
は滅多にないので、心弾ませて新幹線に乗り、会場に向かいました。

第一日目は、埼玉会館という大きなホールで、総勢一千人以上の参加者で行われ、まずその大規模さに圧倒されました。「変わる学校図書館」ということで、文部省の方からの全体指導があり、その中で、「二十一世紀は、学校図書館にコンピュータを設置し、情報化に対応。学習センター及び情報センターとしての図書館作りを目指していく。」というお話でした。

その後、専修大学非常勤講師の稲垣信子先生(最初は中学の英語科の教員でしたが、専任司書となられ、都立日野高校創立時から二十数年間勤務された)講演でした。稲垣先生のお話からは、学ばせて頂くことが非常に多くありました。例えば、生徒会の図書委員会の運営の仕方、また総合的学習の中核となるような図書館作りのための本の選定の仕方などです。また、「生きる力とは、自分が何を求めているか、本から得る力ではないでしょうか。あふれる本の中から、自分が欲

する本を選び出す力が、読書の力であり、調べ学習の力なのです。」という言葉が印象的でした。二日目は、浦和市内の小中学校に分かれて分科会が行われました。私は、東浦和中学校にお邪魔し、船橋市の先生の研究発表をお聞きしました。その研究は「学校図書館を活用した国語科の調べ学習」ということで、学校図書館から資料を使い情報を得ると共に、さらに不足する情報についてはインターネットを利用する、という内容でした。今後の課題として、専任に司書教諭または学校司書の必要性、各学校からインターネットを通じて公共図書館の蔵書検索が可能になると、さらなる連携の強化(物流面)、望ましい教室配置(図書館、学習室、PC室が隣接している)、図書室へのコピー機の設置などが残されました。また、情報獲得手段の一つとしてインターネットも大切であるが、それでは得られないもの、つまり直接体験による感動も大切にしたい、という指導もありました。たった二日間ではありましたが、広く見聞し、大きい収穫を得ることができました。このような研修の機会を与えて頂き、ありがとうございました。(東中)

視放研上小大会に

参加して

竹内ちさと

「広い視野を持ち、二十一世紀の文化を築く人間の育成をめざして、放送、視聴覚教具教材の効果的活用を実証しよう。」の大会主題をすえて、終日行われました。四月に移転新築なった上田第一中を全体会場とし、午前分科会、午後全体会がありました。

分科会には音楽で参加し、授業研究は「情景に合った表現をしよう」の題材で、教材は「峠の我が家」二年。三部合唱で同じ表現をしたい者同志グループでめあてに合った曲想表現をするという授業。

研究会では、拡大コピーの使用やビデオデッキだけではなく、ピアノでの音取りも必要などの意見もありました。つまづいているグループへの教師の助言や支援もありました。講師の先生からは表現を高める手段として斉唱でやるのも一つの方法であるなどの助言も頂きました。適切な視聴覚教材を選択することが大事であることを学びました。

部会研究会は、視聴覚教材の活用法ということで、明科中の「野生の馬」の合唱で、

信教全県大会に参加して

北垣内典子

平成十一年十月二十六日、飯山市立飯山小学校において信濃教育会の全県研究大会が開催された。「自己教育力の育成」自ら問いかけ、みかえしつづ、自力をつける営みにしていく学習指導」をテーマに、三教科(国語・算数・体育)が公開され、私は体育「3の2アスレチックランド」に参加した。

運動が苦手な児童も自分の力に合った場で楽しみながら運動していた。

飯山小では、児童が日々の生活の中で、自ら動き出す姿を見つけ出し、図のような運動の場を設定した。いずれも最大限、安全面の配慮がなされ、随所に手作りの器具が置かれていた。

また児童が気づいたことでそれぞれのコースのよさをおすすめカードとして掲示されていたので、友だちの動きに挑戦することができ、技の広がりも出てくる。

○アスレチックランド

体育館の中に跳び箱、マット、平均台等を広げた運動の場である。多様な動きを自分で自由に選択できるよさがあり、

運動が苦手な児童も自分の力に合った場で楽しみながら運動していた。

本校の宝

井上小のソメイヨシノ

井上小学校

井上小学校のグラウンドをとりまくようにして、約二十本のソメイヨシノが植えられている。春には、それこそお互いに申し合わせていたかのようになり、一斉に淡いピンク色の花を咲かせる。その様は、暖かくなって校庭に出てきた子どもたちや地域の方々を一時立ち止まらせ、その目を奪うほどの見事さである。

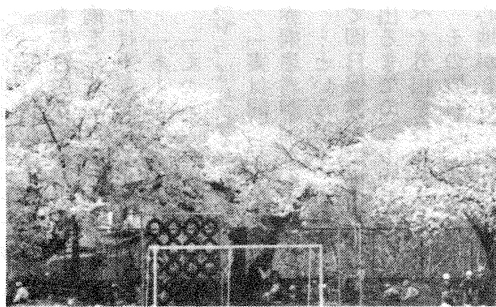
戦後四十年余りに渡って、井上小学校の子どもたちの様子をずっと見てきているかと思うと、感慨深いものがある。この桜の美しさは全県的にも有名で、信濃教育会発刊の「一年生教科書「せいしかつ」(平成四年度版)に背景写真として掲載されている。満開の桜の下であどけない表情の一年生が思い思いに遊ぶ姿は、明るい希望とすがすがしさを感じさせる。

この桜が植えられた時期は昭和二十年(三十年頃)であると思われる。何年かに渡って少しずつ植えられていったよう

である。戦後四十年余りに渡って、井上小学校の子どもたちの様子をずっと見てきているかと思うと、感慨深いものがある。この桜の美しさは全県的にも有名で、信濃教育会発刊の「一年生教科書「せいしかつ」(平成四年度版)に背景写真として掲載されている。満開の桜の下であどけない表情の一年生が思い思いに遊ぶ姿は、明るい希望とすがすがしさを感じさせる。

例年四月の中旬には桜の満開と合わせて「お花見給食」

が行われる。秋には紅葉の下で「もみじ給食」が行われる。木の大小はあるものの広々と



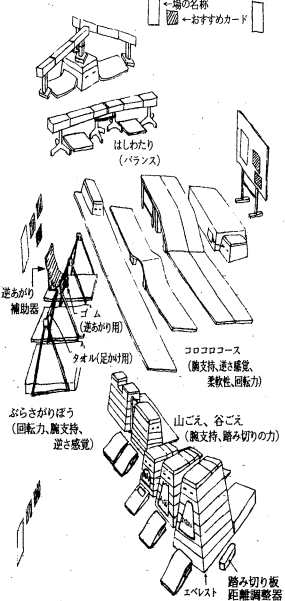
枝を広げたソメイヨシノ一本一本が、春には美しい花で心をなごませ、夏には涼しい木陰となり、秋には赤や黄色の紅葉に衣替えをし、四季おりおりに違った顔で井上小の子どもたちを見つめていく。

校舎が変わっても、児童の顔ぶれが次々に変わっても、何事にも動じず自分の幹を太らせ、枝を天に向かって伸ばし、成長を続ける桜の木々。四十年以上に渡り子どもたちの姿を見守り、成長を喜んできてくれた桜の木々。

いつまでも井上小の子どもたちの心の拠り所であり、自慢の種であり続けてほしい。

(斉藤義男)

運動の場



○はしわたりを続けたMさん

①本時のめあて
コロコロコース

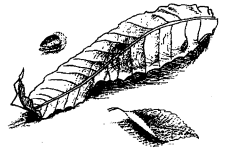
②教師の願い又は手だて
できそうな動きの見当がつくように近くの子どもと一緒にやってみる。

主事先生のお話にもあったのだが、場がめあてになってしまっている。活動をめあてにすることが大切。

コロコロコースでは、約五分間、座りこんでいたMさん。カードをしぼらく見つめ、はしわたりに移動。反対側からくる友だちとジャンケン。負けても負けても、繰り返す。

Mさんにとってこの時間に技の広がりが見られなかった。しかし、繰り返したくなるような活動を見つけたことは、場の工夫が十分にされた成果である。Mさんの笑顔から満足感を受け取った。(豊洲小)

火ばら 談義



墨坂中 宮尾賢一

家族の危機

下村智恵子

二〇〇〇年まであとわずかと
なりました。一九〇〇年代
人類は、さまざまな経験を
してきました。科学技術や経済
の著しい発展の中であって、
家族の姿や役割も大きく変貌
してきました。今、さまざま
な場所で『家族の危機』が言
われています。

子育ての世界では、家族の
教育力の低下や父親不在、児
童虐待などの問題が指摘され
ています。また、介護保険制
度導入を目前にしてわが国で
は、高齢者と家族の問題も大
きな課題です。そして家族の
基本単位である夫婦関係も多
様化・複雑化しています。現
代社会において、学校や職場
でのストレスを癒す役割を家
族が担えなくなってきたり
の現状です。

スタント食品を電子レンジで
チンする光景も珍しくありま
せん。また、学校給食の残飯
の実態から主食をとらず、野
菜離れのすすんでいることも
わかります。朝食を欠食する
子は少ないですが、食事内容
は「ごはんにふりかけ」「パ
ンと牛乳だけ」という単調な
取り合わせになっています。

先日、マスコミの報道で、
家族が別々のメニューを別々
の部屋で食べ、「親子でも必
要な情報が違う以上、別々の
場所ですべるのは自然な流れ」
「自分の世界に入ってゆっく
りした時間を過ごしている。
お互いにとって良いことだ。」
とマイクに向かって言う母親
の姿を見て、背筋がゾッとし
ました。このように育った子
ども達が大人になり、親とな
った時どのような食卓の風景が
あるのでしょうか。「自分の
世界」って存在するのですよ
うか。人との関わりが下手に
なってきた現代人の病んでい
る姿を感じます。

(森上小)

「エジプトの恐怖」

長井 裕之

エジプトは恐ろしい。
この夏休み、妻とエジプト
旅行に出かけた。成田から約
二〇時間でカイロ着。「記念
植樹？」のためにいきなりバ
スに乗せられ砂漠の真ん中に。
本当に肌を刺すような陽射し
と暑さであった。

「エジプトの恐怖」って
その暑さ？ いやいや、そん
なものではなくて：
さて、そのツアーではもち
ろんピラミッドも見た。すご
かった。あと、アブシンベル
大神殿も感動ものだった。名
物『ハト料理』：うまくもな
んとなかった。エジプト人？
ちょっと怪しげだが陽気な人
たちだった。治安が悪かった？
いやいや、パリやバルセロナ
に比べれば安心安心。

「えっ、ケーキですか？」
初めて聞いた人はいつも驚き
の表情を浮かべて聞いてくる。
ケーキ作りが趣味の男性はま
だ珍しいようです。

「それなら何が恐怖なの？」
真の恐怖は帰国数日後の一
本の電話から始まったのだ。
「長野保健所ですが、エジ
プト旅行に行かれましたよね。

ちょっと一服ケーキはいかが？

野本 毅

いたときに限ります。しかし、
気が向いたときには、一人で
台所に立って作っています。
自然と顔がほころびます。
(なんか気持ち悪いなあ)

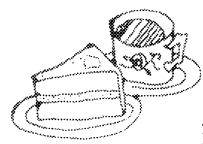
作ったケーキは、なにも一
人で食べてしまおうわけではあ
りません。(そんなことをし
たら太ってしまう…)それを
おいしくいただくしてくれる人
のもとに届けます。学校の先
生方なのですが、「月曜日の先
朝の休憩室のケーキ」は、一
時相中の名物でした。(それ
ほどのものでもない)

「興味」と言っても毎日毎
日ケーキばかり作っている
わけではありません。ケーキ
を作ったことのある人ならわ
かると思いますが、一つのケー
キを作るためにはある程度の
まとまった時間が必要です。
そして、何よりもズクがなく
てはなりません。そのために、
ケーキを作る日はほとんどが
日曜日などの休日になります。

感じるのには、それを「おいし
しかも、忙しくなく、気が向

お腹の具合はどうですか？」
「(やばい！…実は二人と
も旅行中からずっと強烈な下
痢をしていたのだ) ちょっと
だけ下痢気味ですが…」
「あー、やっぱりねえ」
「えっ？ (おいおい、何が
「やっぱりねえ」なんだよ)」
「実は同じツアーの方から
赤痢患者が出たんですよ」
…という事で、夫婦そろっ
て即日保健所で検便。結果が
出るまでの二・三日間、なる
べく外出を控えるとのこと。
その数日は、本当に生きた
心地がしなかった。頭の中を
駆けめぐるのは、隔離病棟の
自分の姿と、白衣を着た保健

い」と言ってお腹を食べてくれる人
がいるから。「もっとくした
ほうがいいんじゃない？」っ
て言ってくれる人がいるから
なのでしょう。自分で作った
ケーキのことが、その日の朝
の話題になる。何だかうれし
いものです。失敗・成功、見
た目の善し悪しに関わらず、
喜んでケーキを食べてくれる
人がいる限り、このケーキ作
りの趣味は続いていくこと
でしょう。
さて、今度はどんなケー
キを作ろうかなあ！
(相森中)



(相森中)

今年も各地から雪の便りが
届くようになりました。厳し
い残暑の中で始まった二学期
も、そして一九九九年も残り
わずかです。
さて今回の教育会報は、各
種研究大会・研修会の成果や
参加報告を中心に編集させ
ていただきました。
お忙しい中、原稿依頼を快
くお引き受けくださり、貴重
な原稿をお寄せくださった先
生方、本当にありがとうございます。
日ごとに寒さが厳しくなり、
また学期末をむかえて何かと
忙しくもなります。風邪など
ひかれぬよう、お体に気をつ
けてお過ごしください。
(藤澤・岩知道)

編集後記

(日滝小)